

大阪市会議員
須藤奨太
議会資料

協力分析：一般社団法人 地域共創会議

アンケート調査の背景と目的

支援の必要な子どもへの教育に関する、教師のみなさんへのアンケートを実施しました。

アンケート概要

期間： 2026年2月19日～2月27日

対象者： 天王寺区・東住吉区・淀川区内の 小学校39校 中学校16校

方法： ウェブアンケート方式

回答総数：153 件

教室および支援学級のニーズは発達障害の理解浸透や多様な背景により加速度的に増大しています。

しかしながら行政のリソース供給が追従せず「組織運営上の構造的欠陥」が露呈していると考えられます。

そこで現場の摩耗を客観分析し、個人の努力で解決不可能な構造的課題を可視化することが必要との考えでアンケートを実施することとなりました。

アンケートの総括と分析

1. 現場が直面している現状

支援ニーズの増大：ほぼ全ての回答者が、支援を必要とする児童生徒が「増えている」と回答しています。

深刻な人員不足：体制について「非常に不足している」「不足している」との回答が圧倒的です。特に、支援級在籍生徒が通常学級の人数にカウントされない（ダブルカウントされない）ことによる担任の負担増や、専門性のある正規教員の不足が訴えられています。

中学校における課題の深刻化：小学校に比べ、中学校では進路選択や思春期特有の対人関係、不登校、ネット依存など、より複雑な課題が顕著になる傾向があります。

2. 指導・支援における具体的な困難点

保護者対応の難しさ：最も多く挙げられた課題の一つです。「保護者が子どもの障がいを理解・受容していない」「学校への要求が過剰または実情と乖離している」「保護者自身にも支援が必要なケースがある」といった声が目立ちます。

教員の専門性と裁量：指導内容が「教員個人の裁量に依存している」と感じる教員が非常に多く、専門的な研修の機会や、組織としての統一した指導方針の欠如が指摘されています。

グレーゾーンへの対応：診断のない児童生徒への支援が不十分であり、担任一人の負担になっている実態があります。

3. 連携と体制への要望

外部機関との連携不足：医療機関による診断のばらつきや、放課後等デイサービスとの方針の相違、行政による就学前の調整不足などが課題として挙げられています。

人的配置の拡充：サポーターだけでなく、専門性を持った「正規教員」の増員を求める声が切実です。また、通級指導教室の設置基準（13名以上）が小規模校にとって高い壁になっているとの指摘もあります

4. 自由記述に見られる特筆すべき意見

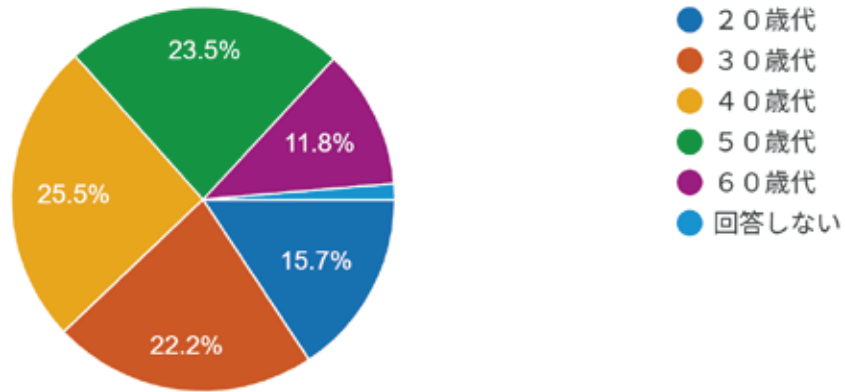
インクルーシブ教育の歪み：「みんな一緒」を優先するあまり、個別の学力保障（読み書き計算など）や社会適応訓練が疎かになっているという危惧があります。

教員の意識格差：支援教育を「楽だから」と志望する一部の教員の姿勢を疑問視し、教員の資質向上と適切な評価システムを求める厳しい意見も見られました -

年代

ご自身の年代

153 件の回答

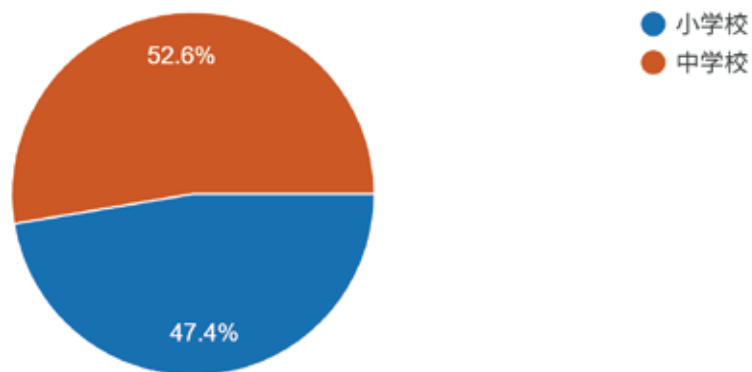


- 40歳代の回答が最も多く、約 26% (39 人) を占め、次に 50歳代が約 24% (36 人) 30歳代が約 22% (34 人) です

校種

ご所属の校種

152 件の回答

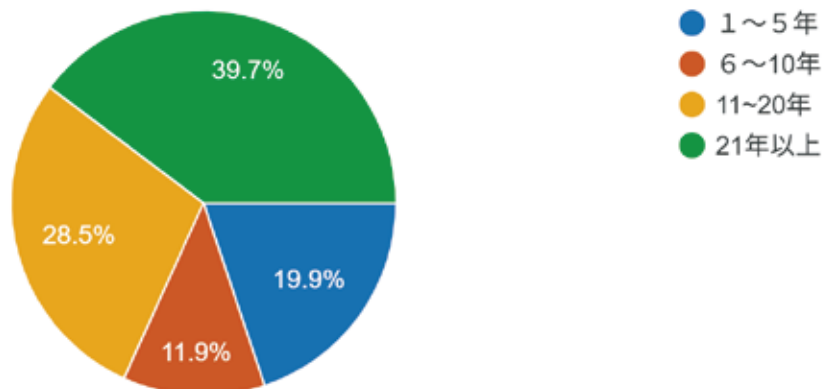


- 小学校の先生が 47.4%
- 中学校の先生が 52.6%から回答をいただきました

教職経験

教職経験日数

151 件の回答

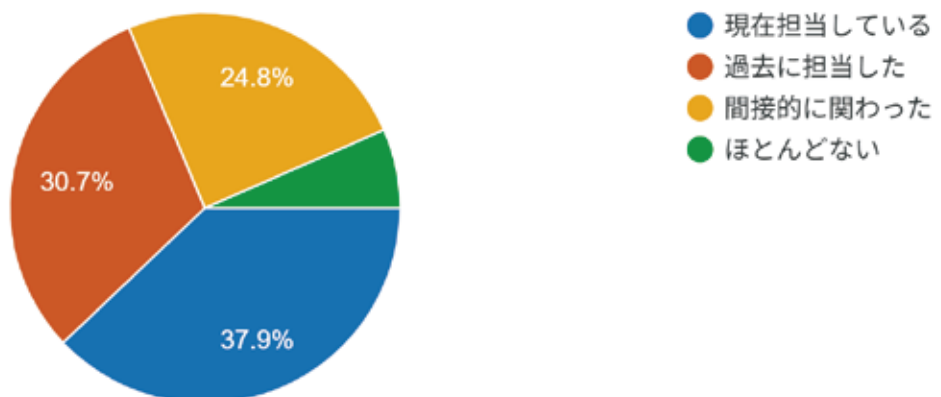


- 教職に21年以上携わっている方が約40%おられます
- つづいて中堅と思われる11～20年の約29%、
- 新人もふくめた1～5年の方が約20%となっています

指導経験

支援の必要な児童生徒の指導経験

153 件の回答

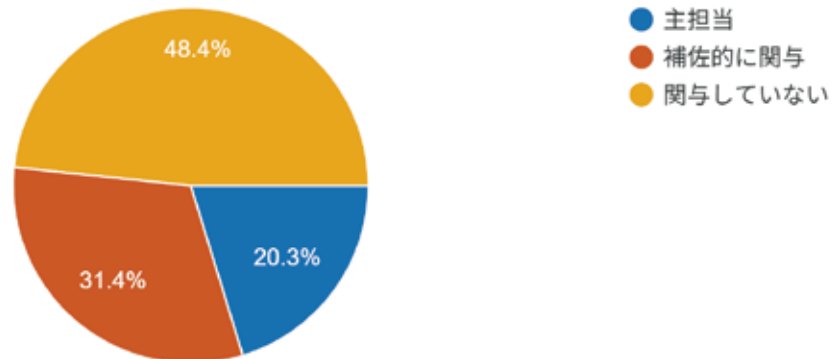


- 現在担当しておられる先生が約38%、
- 過去に担当された先生が約31%、
- 間接的に関わった先生が約25%おられます
- 全体でいうと約93%の先生が指導経験をお持ちです

現在の関わり

現在、通級指導教室や支援学級に関わっていますか

153 件の回答

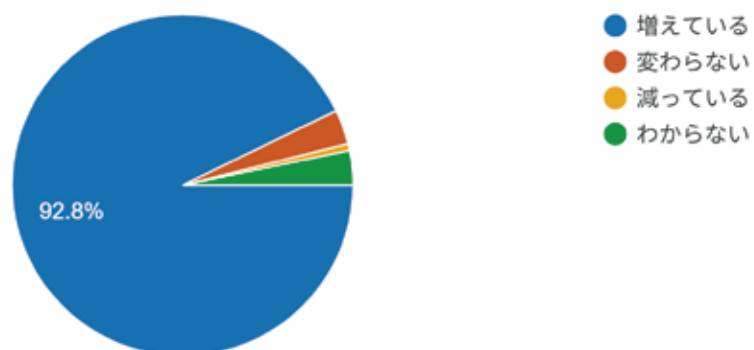


- 主担任としてかかわっている先生は約 20%（31名）
- 補佐的に関わっている先生は約 31%（48人）いらっしゃいます

支援ニーズ

支援の必要な児童生徒の支援ニーズについて

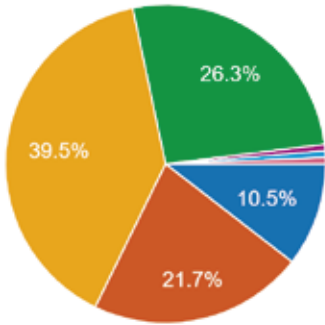
153 件の回答



- 増えていると回答した先生が 92.8%（142人）で、ほとんどの先生が増えていることを実感されています

受け入れ体制

通級・支援学級の受け入れ体制について
152 件の回答

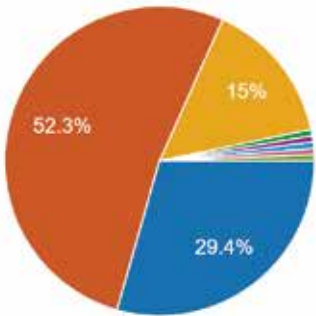


- 十分
- やや不足
- 不足している
- 非常に不足している
- 体制を理解出来るほど自分自身が理解できていない。
- 通級指導に関して、13名の入級がなければ教員配置をいただけないため、13...
- 不足傾向にあるが、教室不足により人員を増やしてもらうことも難しい

- 非常に不足と考える先生が 22%、不足と感じる先生が約 40%、やや不足が 26%
- 不足と感じる先生が約 61%となっています

支援体制の差

学校間・地域間で支援体制の差について
153 件の回答



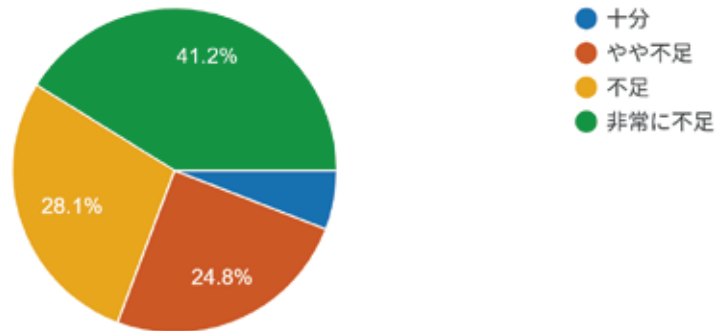
- 強く感じる
- やや感じる
- あまり感じない
- 感じない
- わからない（今年度から勤務のため）
- そもそも制度疲弊を起こしていて、人が足りない
- 他の学校・地域を知らないのわからない
- 小規模校では有償ボランティア（特別...

- 強く感じる約 29%、やや感じる約 52%となり、差を感じている先生が約 81%になっています

人員配置の課題

現在の人員配置（教員数・専門性）についての課題

153 件の回答

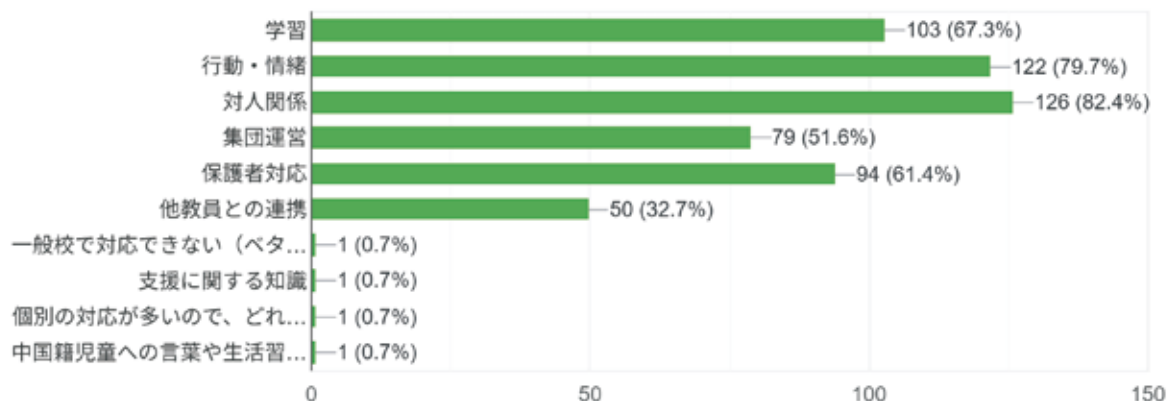


- 非常に不足と考える先生が 22%、不足と感じる先生が約 40%、やや不足が 26%
- 不足と感じる先生が約 61%となっています

支援体制の差

支援の必要な子どもへの指導で、特に難しさを感じる点は何ですか（複数選択可）

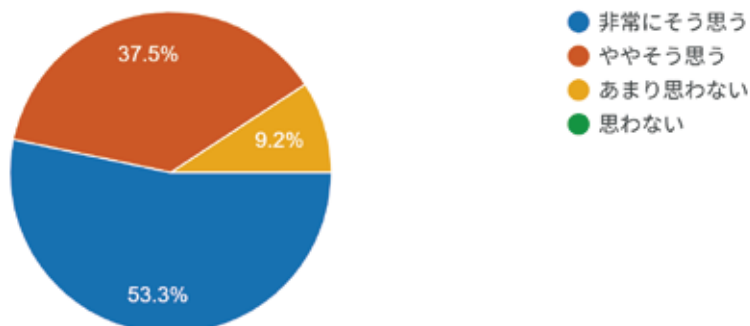
153 件の回答



- 複数回答で対人関係が約 82%、行動・情緒が約 80%、学習が約 68%となっています
- 保護者対応も約 61%と高い数値となっています

教員個人の裁量

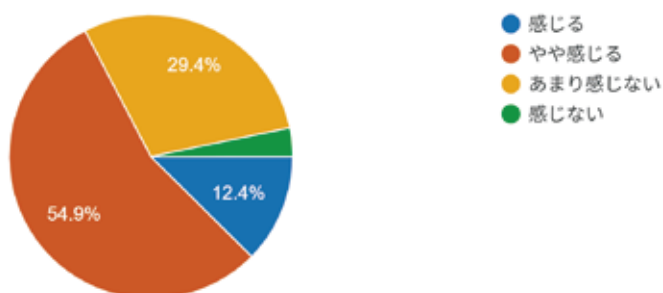
通級・支援学級の指導内容は、教員個人の裁量に依存していると感じますか
152 件の回答



●非常にそう思う約 53%、ややそう思う約 38%で
約 91%の先生が個人の裁量に頼っていると認識されています

支援の専門知識

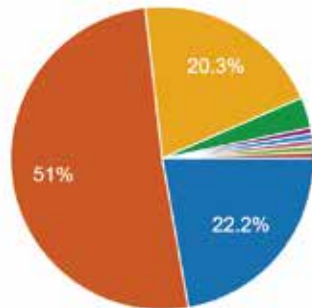
支援に関する専門知識や用語（自立活動・SST等）は理解しにくいと感じますか
153 件の回答



●理解しにくいと感じる先生が約 12%、やや感じるが約 55%で
約 67%の先生が理解がむづかしいと s s 感じています

研修の機会

支援教育に関する研修の機会は十分にありますか
153 件の回答

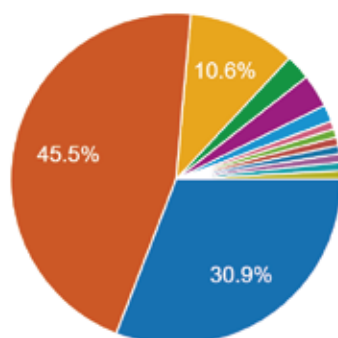


- 十分
- やや不足
- 不足
- ほとんどない
- 大変不足している。その為、自腹で特別支援教育士を取得、その後、関西大学...
- 機会はあるが、校務等で出席できない...
- 自ら研修に参加している教員は十分あ...
- 研修の機会はあるが、時間的に参加が...

● やや不足から不足など不十分と感じている先生が
全体の約 78%を占めています

中学校教員の負担

中学校教員は特に専門性や負担の面で課題が大きいですと感じますか
123 件の回答

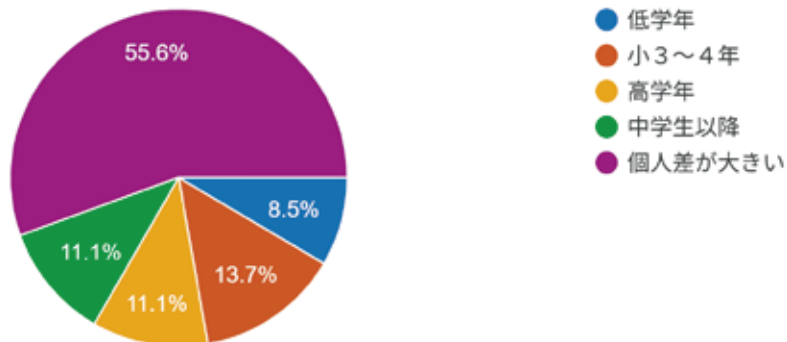


- 強く感じる
 - やや感じる
 - あまり感じない
 - 感じない
 - わからない
 - 小学校教員なので中学校の実態はわか...
 - 中学校のことはあまりわからない
- ▲ 1/2 ▼

● 強く感じている先生が約 31%+やや感じるが約 46%で
全体として約 77%の先生が負担が大きいですと感じています

「困り感」の言語化

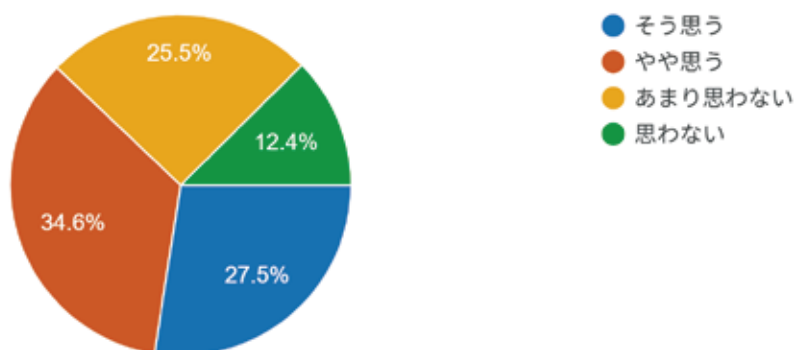
子ども自身が「困り感」を言語化できるのは、どの時期が多いと感じますか
153件の回答



- 低学年が約9%、小3～4が約14%、高学年が約11%、中学生以降が約11%でほぼ同じぐらいと考えられます。
- ・いちばん多いのは「個人差が大きい」という回答でした

本人の意思

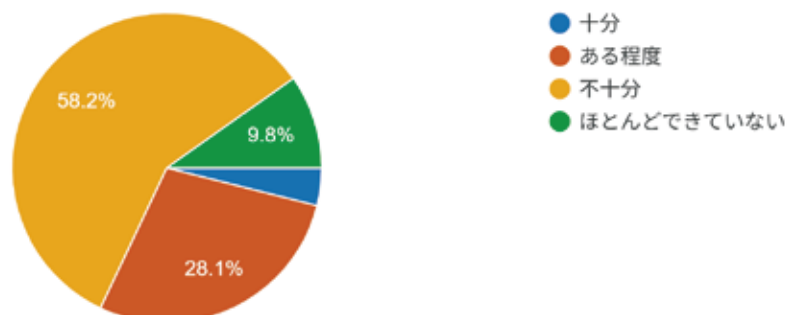
本人の意思や理解が明確になってからの方が、支援はうまく機能すると感じますか
153件の回答



- そう思う先生は約28%、やや思うが約35%で合計約63%の先生が本人の意思や理解があったほうが、支援がうまく機能すると考えています

診断のない子ども

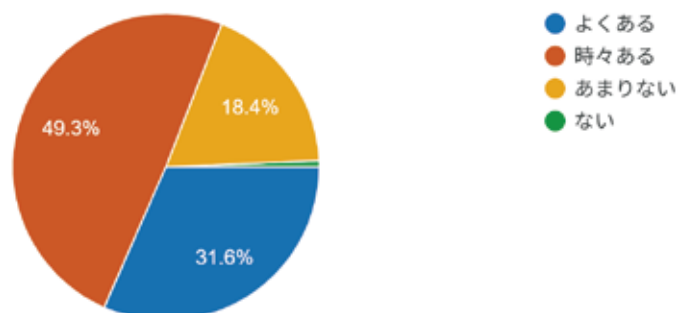
診断のない子どもへの支援は、十分に行えていますか
153 件の回答



● そう思う先生は約 28%、やや思うが約 35%で合計約 63%の先生が本人の意思や理解があったほうが、支援がうまく機能すると考えています

判断の基準

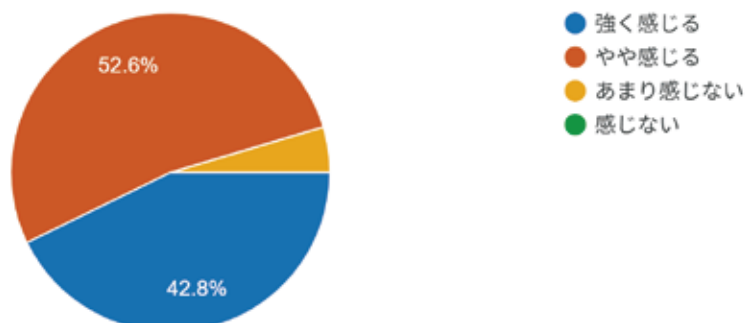
医師や医療機関などによる診断基準のばらつきを感じることはありますか
152 件の回答



● 強く感じている先生が約 31%+やや感じるが約 46%で全体として約 77%の先生が負担が大きいと感じています

保護者の理解

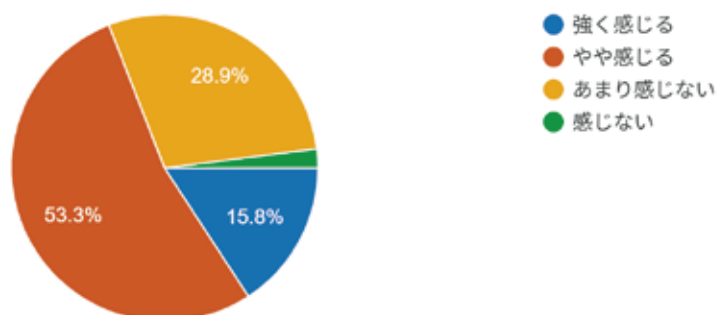
支援の必要な子どもの保護者の中で、子どもへの障...い理解に至っていないと感じることはありますか
152 件の回答



●強く感じている先生が約 53%+やや感じるが約 43%で
全体として約 96%の先生が理解にいたっていないと感じています

進学時の支援体制

小学校から中学校への進学時に、支援が途切れやすいと感じますか
152 件の回答

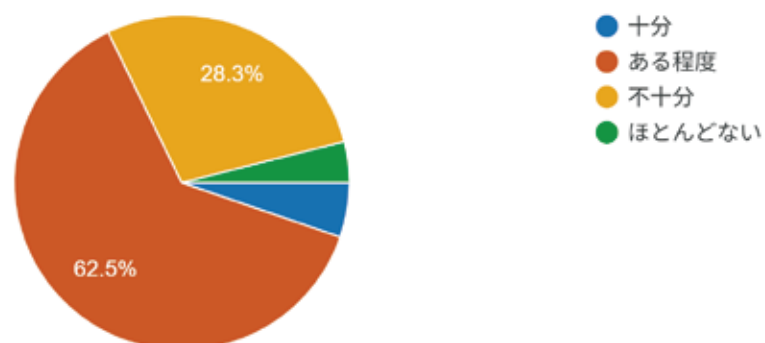


●強く感じている先生が約 29%+やや感じるが約 53%で
全体として約 81%の先生が、支援が途切れやすいと感じています

学校外の連携

学校外（地域・支援学校・専門機関）との連携は十分だと思いますか

152 件の回答



●十分と考えている先生が約 10%、ある程度が 63%で約 73%の戦士が連携はとれていると回答くださいました

小学校

■ 教職経験 1 ～ 10 年

主な意見

①保護者の理解の難しさ

- ・ 家庭では困り感が少ないため、保護者が問題を認識しにくい
- ・ 保護者が障がいを受け入れないケースがある

②人員不足

- ・ 支援が必要な子どもは増えているが教員が足りない
- ・ 支援級の子どものが通常学級人数にカウントされないため担任の負担が大きい

③学級運営の困難

- ・ 集団生活が難しい児童が増えている

■ 教職経験 11 ～ 20 年

主な意見

①教員配置不足

- ・ 現場の人員が足りず疲弊している
- ・ 支援員だけでなく本務教員の確保が必要

②保護者対応

- ・ 父母で障がい理解に差がある
- ・ 支援の理解がない保護者がいると前に進まない

③学校外連携の必要

- ・ 子どもサポートネットなど地域連携が重要

■ 教職経験 21 年以上

主な意見

①支援体制の構造的課題

- ・ 加配教員が減り現場が回らない
- ・ 日本語指導など新たな支援ニーズが増えている

②保護者理解の課題

- ・ 障がい受容ができない保護者
- ・ 学校の支援方針を理解してもらえない

③制度・行政への要望

- ・ 学校実態に合わせた教員配置
- ・ 通級指導教員の増員
- ・ 地域支援施設の拡充

中学校

■ 教職経験 1 ～ 5 年

主な意見

①保護者との認識ギャップ

- ・ 保護者のイメージと学校の実情が大きく違う
- ・ 本人は支援を必要としているのに保護者が否定する

②人員不足

- ・ 支援担当教員が足りない
- ・ 教員数不足で十分な支援ができない

③支援の難しさ

- ・ 保護者のニーズと本人の状態のギャップ
- ・ 支援の方法は手探り

■ 教職経験 6 ～ 10 年

主な意見

①専門性不足

- ・ 支援教育の専門知識が不足
- ・ 実践的な研修が必要

②学習環境の課題

- ・ 個別学習や小集団学習が必要な生徒が増加

■ 教職経験 11 ～ 20 年

主な意見

①支援ニーズ増加

- ・ 支援が必要な生徒が急増

②保護者対応の負担

- ・ 保護者の要望が学校の対応可能範囲を超える
- ・ 保護者対応で精神的に消耗

③教員の多忙化

- ・ 支援対応に時間が取られ教科指導に影響

■ 教職経験 21 年以上

主な意見

①制度疲弊

- ・ 支援制度が現場に合っていない
- ・ 人員不足が深刻

②小中連携の不足

- ・ 小学校から中学校で支援が途切れる

③行政への要望

- ・ 小学校段階で進路判断を行政も関与
- ・ 地域・福祉との連携強化

全体傾向（重要ポイント）

自由記述から共通して出ている課題は 5 つです。

- ① 保護者の障がい理解
 - ・ 障がい受容が難しい
 - ・ 保護者と学校の認識ギャップ
- ② 教員不足
 - ・ 支援ニーズ増加に対して人員不足
 - ・ 個別支援の時間確保が困難
- ③ 支援専門性
 - ・ 教員の専門研修不足
 - ・ 支援が教員個人の力量に依存
- ④ 制度・仕組み
 - ・ 支援級人数カウント問題
 - ・ 加配教員不足
- ⑤ 連携不足
 - ・ 小中接続
 - ・ 医療・福祉・地域連携